

電子書籍利活用調査の状況について

【関連：目標 1（1） 目標 4（2）】

資料支援室

【事業目的】

- 学校の ICT 化推進に対応した、新しい学校支援サービスの検討
- 「不読率」が上昇傾向にある中高生に対する読書喚起の効果の検証
- 紙の本での読書に困難がある子どもの読書活動の支援
- 社会情勢やライフスタイルに対応した、多様な読書手段の提供による利便性の向上

【事業概要】

- 電子書籍サービス「Librari-E&TRC-DL」を利用し、分野、形態に特化した電子書籍を提供
- 利用傾向を分析し、本サービスに向けニーズや課題の把握に活用する。

《対象》県立学校を主とした児童生徒、教職員

《提供コンテンツ》

絵本、小説、読み物、調べ学習、課題解決に役立つ資料、学習参考書、問題集、検定・資格取得資料など

《実施期間》令和 5 年 12 月まで（令和 6 年 3 月末まで利用可能）

- 実施状況（令和 5 年 7 月 31 日現在）

《区分別参加校・閲覧数》

参加区分	参加校数	閲覧数	コンテンツ数
小学校	3	1,322	9,074
小中一貫校	1	5,807	
中高一貫校	6	7,687	
高等学校	18	35,303	
特別支援学校	3	1,029	
計	31	51,148	

《アンケート結果（令和 5 年 4 月実施）》

- ・電子書籍の利用は生徒の自由にしているとの回答が最も多く、次いで授業で活用しているとの回答が続いた。
- ・提供ジャンルと参加校のニーズにズレは無いように思われるが、コンテンツ数が少ないとの回答が複数あった。
- ・読み上げ機能の精度に不満の声があった。
- ・次年度以降も利用を希望すると回答した学校は 90%だった。

《中高生の利用の動向》

- ・アンケートでは自由に利用させていると回答した学校が多かったが、時間データを見ると在校時間帯（朝読・昼休み）の利用数が多い。
- ・在校時間帯を除くと、中学生は 21 時～23 時台、高校生は 16 時～19 時台の利用者が多く、高校生よりも中学生の利用時間が遅い傾向にある。
- ・早朝（4 時～7 時）よりも深夜（23 時～2 時）の時間帯の利用が多い。

【今後の課題】

- 令和 6 年 4 月から本サービスとして実施に向けた事業設計の検討
- 電子書籍サービスについて学校関係者の理解の促進
- 提供コンテンツ増加のための予算確保